

事業を通じた地域経済への貢献



マテリアリティの中長期ビジョンと2021年度実績

	リスク	機会	対応の方向性
長期	- 世界的にアセアン地域への投資が進み、労働力不足や人件費上昇への懸念 - 経済発展による域内・所得格差の拡大	- 人材の育成による経営基盤の強化 - 継続した設備投資による労働環境の改善、生産性向上・効率化	事業展開している地域に寄り添い、発展と課題解決に向き合い、共に成長を目指す

	外部環境	ステークホルダーのニーズや期待	中期目標
中期	- アセアン地域における - カーボンニュートラル社会への取り組みを推進 - マルチFTA(自由貿易協定)網の拡大による輸出入の円滑化	雇用、人材育成、投資、技術移転、輸出、環境、社会貢献による地域の発展	- すべてのステークホルダー・社会への貢献を重視した事業展開 - アセアン地域を事業中核地域として経営資源を集中

項目	2021年度目標・実績	自己評価
雇用	現地雇用の持続的な創出： タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムで、現地従業員計1万2千人（非正規雇用含む）を雇用	—
人材育成	地域経済の発展を担う人材の成長支援： 〈代表的な研修〉ディーラースタッフ向け営業・サービス研修／現地社員向け業務レベル強化セミナー／技術向上に向け「ものづくり教育」研修	○
投資	地域経済の成長を支える設備投資の継続実施： 〈主な投資計画〉タイ塗装工場新設／ベトナム新工場検討	○
技術移転	現地生産の継続による地域の製造業の高度化支援： 〈主なプロジェクト〉タイに新塗装工場を新設し量産稼働開始／タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムで、職業訓練校や技術系大学に奨学金付与、実習車両提供、オンライン授業を実施	○
輸出	輸出による外貨獲得を通じた地域経済の成長支援： 〈輸出台数〉タイ31.9万台、インドネシア4.2万台	—
環境・社会貢献	当社独自技術・サービスを生かした地域社会問題の解決支援： ・タイとインドネシアにおいて、物流会社、国営郵便等との軽商用EV実証実験開始 ・タイで太陽光発電設備を病院に設置する環境貢献プロジェクト開始 ・インドネシアで太陽光パネルで発電した電力を電動車に蓄電するV2H(Vehicle to Home)システム「電動Drive House」を販売会社本社に設置 ・インドネシアで、『アウトランダー PHEV』をコロナワクチン輸送支援に3台寄贈	—

○：計画通り △：遅れあり —：実績の確認のみ



基本的な考え方

三菱自動車は、アセアン地域でモータリゼーションが興る以前より事業を展開し、「地域の発展」が「当社の発展」という思いで地域に寄り添いながら各国と共に成長してきました。

長年にわたり事業活動を行っている地域の社会課題の解決に積極的に取り組み、共に成長を目指すことは、地域の活性化、市場の育成、消費者ニーズの把握、当社ブランド力の強化などにつながり、「地域の発展」と「当社の発展」を同時に実現できると考えています。現在の中期経営計画「Small but Beautiful」では、アセアンを事業中核地域として経営資源を集中投入し、お客様に選ばれる製品を提供することで更なる成長を目指しています。また、マテリアリティ「事業を通じた地域経済への貢献」では、アセアン地域における事業の発展を通じ、雇用・人材育成・投資・技術移転・輸出による地域経済への貢献を果たすことを目標として取り組んでいます。（※1）。

加えて、アセアン地域固有の社会ニーズに応える形で、環境と社会貢献の分野でも当社独自の技術・サービスを生かして取り組んでいます。（※2）

※1：「マテリアリティの特定」の詳細は、P15をご参照ください。

※2：具体的な事例は、P74-75をご参照ください。

マネジメント体制

アセアン地域でのマテリアリティへの取り組みは、現地子会社が活動計画の策定および遂行を担い、管理監督機能を果たす当社の営業部門が責任部門として取り組みを推進しています。生産拠点を持つタイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムの4カ国については、半年に一度、現地子会社に取り組みの進捗や実績を確認し、サステナビリティ委員会を通じて経営層に報告を行っています。

雇用

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による市場低迷からの経済再生、発展を目指すアセアン地域において、地域の雇用を継続して創出することは当社の使命と考えています。生産拠点のあるタイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム4カ国における2021年度従業員数は約1万2千人であり、2022年度も事業計画に沿って現地雇用を持続的に創出します。

人材育成

産業の高度化を目指すアセアン地域において、当社での自動車製造や販売・サービスなどの就業経験を通じ、専門的な知見や技能を培うとともに、地域経済の発展を担う産業人材への成長支援を行っています。2021年度は、新型コロナウイルス感染対策を徹底しつつ、オンラインを活用するなど各国それぞれの状況に応じた研修やOJT教育を提供しました。

- ・タイでは営業・サービス研修を約4万人の従業員とディーラースタッフにオンラインで実施しました。
- ・インドネシアでは現地社員にそれぞれの職務レベルに合わせた業務スキルを強化する研修をオンラインで実施しました。
- ・フィリピンでは生産部門の技能向上を意図した「ものづくり教育」研修を約150人の社員が受講し、専門性を高めています。

2022年度も継続して、各国の状況に応じた研修やOJT教育を行う予定です。

投資

地域経済の成長を支える工場の設備投資を継続的に実施しています。海外最大の生産拠点であるタイでは、2021年度に新塗装工場が開所しました。太陽光発電設備の設置など、環境負荷を低減する生産体制の再構築も進めています。



ターゲット
● 4.4



ターゲット
● 9.2
● 9.4



ターゲット
● 10.2



ターゲット
● 11.5



ターゲット
● 13.1



ターゲット
● 17.7

技術移転

アセアン地域での生産拠点が果たすべき役割として、現地生産を維持し、技術移転を通じて地域製造業の高度化を継続的に支援します。加えて、品質向上やコスト低減などバリューチェーンに変革をもたらすような工場の競争力強化にも取り組んでいます。

2021年度はタイの老朽化した2つの塗装工場を1つの新塗装工場として集約し、刷新しました。

新しい工場では、従来の中塗り・上塗りの自動化に加え、アセアン地域では初となる車両全体へのシーラント塗布および内板部塗装工程における自動化技術を導入し、以前の工場に比べ大幅に生産の効率化を図り、競争力を強化しました。

環境に関しては、逆浸透処理システムの採用により廃水を最大で75%リサイクルでき、水性塗料化やカートリッジ方式塗装機の導入により揮発性有機化合物 (VOC: Volatile Organic Compounds) の排出量を50%削減できるほか、工場集約の効果によりCO₂排出量を30%削減するなど、環境負荷低減を実現しました。(データはいずれも2017年度比)

さらに、再生可能エネルギーの導入を促進しており、新塗装工場の屋根に太陽光発電設備を設置することにより年間1,700t以上のCO₂排出量削減に貢献します。

また、タイ、インドネシア、フィリピンの地域の技術系大学や職業訓練校に、奨学金による支援や実習車両の提供、オンライン授業の実施、教師へのオンラインセミナーの開催など技術移転の視点での職業訓練支援を実施しました。

2022年度も、職業訓練支援や工場の競争力強化の取り組みを通じて、地域の製造業の高度化支援を行います。

輸出

輸出を通じて外貨を獲得することで、地域経済の持続的な成長を支えています。三菱自動車の海外最大の生産拠点であるミツビシ・モーターズ (タイランド) ・カンパニー・リミテッド (MMTh) は戦略的な立地を生かし、ピックアップトラック、SUVなど当社の主力車種をアセアン地域のみならずグローバルに輸出しています。2021年度の市場も新型コロナウイルス感染症拡大により2020年度に続き厳しい状況でしたが、タイ国内からの輸出台数は約32万台、インドネシアからは、小型MPV『エクスパンダー』約4万台を出荷しました。2022年度もアセアン域内での生産の相互補完体制を強化し、アセアン域内・外への輸出を維持していきます。



新型『エクスパンダー』

環境・社会貢献

アセアン地域においても環境規制への対応が従来にも増して大きな課題となっており、カーボンニュートラル社会の実現が求められていることから、当社の強みである電動車の技術・知見を生かし、地域社会の課題解決を支援しています。

2021年度は、タイとインドネシアにおいて、国営郵便や物流企業などとの軽商用EV『ミニキャブ・ミーブ』を使った実証実験を開始しました。また、タイではCO₂排出量を削減する目的で、太陽光発電設備を病院に設置するプロジェクト「Solar for Lives」を政府と開始しました。インドネシアでは、政府が進める新型コロナワクチン輸送支援活動に参加し、『アウトランダー PHEV』を3台寄贈しました。2022年度もアセアン地域における電動車の普及推進や環境負荷低減につながる活動を行います。



実証実験で使用している充電中の『ミニキャブ・ミーブ』



環境プロジェクト「Solar for Lives」
太陽光発電設備を設置した病院